

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立大月小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
足利市立大月小学校	https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/	https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「【教育課程特例校】特別の教育課程の実施状況等について（足利市）」を参照。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

- 第1学年から英会話学習を実施することで、英語を話したいという意欲が高まり、EAAに進んで話しかけたり、掲示物を見て読んでみたり、英語の歌を口ずさんだりする姿が見られるようになった。
- 英会話学習の時間だけでなく、英語活動の時間を楽しみにしている児童が増えた。
- デジタル教材を真剣に聴いたり、観たりして自分の意見をもとうと考えている。
- 発音について、意識的に日本語との違いを聞き取り、正しく発音しようとしている。

(4) 学校関係者による評価

〔児童〕

- 初めのうちは、自信がなくて発音するのが恥ずかしかったが、ゲームの中で使っているうちに、恥ずかしくなくなった。
- ALTやEAAに話しかけられると、何を言われているのかが分からなかったけど何回もやっているうちに、答え方が分かるようになって楽しくなってきた。
- 英会話学習の中で自然に相づちを英語で答えるようになってきた。

〔保護者〕

- 第1学年からの英会話学習は楽しんでいるようだ。楽しい中で、英語のコミュニケーション力が身につくならよいと思う。
- (自分自身の経験と重ねて考えると) 小さいうちから、英語を学習することは、早いうちから苦手意識が芽生えてしまうのではないかと心配だったが、今のところ楽しそうに活動している。
- 第1学年からの積み重ねがあると、英語や英語圏の国々を身近に感じることができる。

4. 実施の効果及び課題 (○・・・効果、△・・・課題)

○英会話学習に第1学年から取り組んでいることで、英語を発音することに抵抗がなくなるため、外国語の学習に積極的に取り組める。

△語と語のつながりを意識して発音したり、聴き取ったりすることができるようにしたい。

△単元で学習したことが、その時間内で完結していて、ある程度のまとまりをもったコミュニケーションになっていない。

5. 課題の改善のための取組の方向性

低学年で慣れ親しんだ単語を繰り返し使いながら、学年が上がるごとに徐々に語彙を増やすことができるように意識させる。コミュニケーションが、楽しいと感じられるような工夫を活動の中に取り入れる。発達段階に応じて、学期の最後などに、既習の単元を取り入れたやり取りができる展開を考えるようにする。

発表場面を意図的に設定し、どの子も挑戦することができるようにする。(朝や昼の放送等)。

